

「一瞬」と「一瞬」

ある映画のラストシーン。
65歳で人生の終りを迎えた主人公が、
家族や友人たちを前に、呟きます。

この人生も、振り返れば、一瞬であった。

人生のはかなさに対する、こうした感懐は、
映画だけでなく、文学や手記においても、
多くの人々によって語られています。

我々の人生は、長くとも、100年。
地球の歴史は46億年。
宇宙の歴史は137億年。

その悠久の時間から見ると、
文字通り、それは、
「一瞬」と呼ぶべき時間。

しかし、そのことを思うとき、
我々は、一つの真実に気がつきます。

この悠久の時間の流れの中で、そして、
この壮大な宇宙の片隅で、
一人の人間が、一人の人間と出会うとき、

それは、その「一瞬」と「一瞬」が重なる

「奇跡の一瞬」。

そのことに気がつくのです。

そして、そのとき、我々は、
初めて、知るのです。

「縁」

その言葉の、
本当の意味を、知るのです。